



## 育成会だより 第77号

第95団育成会 Bグループ幹事 相原恵美

平成21年9月吉日  
ボーイスカウト横浜第95団  
育成会会長 作田豊彦  
団委員長 米澤 潔

### 33期を迎える指導者の皆様へ

育成会 会長 作田豊彦

三指

新たに33期を迎えることとなりました。隊指導者の皆様にはこれからの一年新しいスカウトとともに活動をお願いいたします。例年計画された事業を仕事・ご家庭との調整をしながら活動にご尽力されているからこそ団・隊の運営が維持されているのであり 育成会として心から感謝いたします。

指導者の方々は「隊長ハンドブック」を自らの活動の指針としてと思いますが ここにカブスカウト隊長ハンドブックの冒頭の文章を紹介いたします。

あなたは、自分の小学校時代のことを覚えていますか？ あなたは、どんな子供だったのでしょうか。心に残る楽しい思い出がたくさんあることでしょう。

あなたが活発な子供だったら、きっと、毎日暗くなるのも忘れて友達と夢中で遊んだ経験や野山をかけ回ったり、川で遊んだり、時には失敗したり、けがをしたり、けんかをしたり・・・今思い出しても胸が熱くなるような懐かしい数々の思い出があることでしょう。そんなあなたなら、多分それは、大人の監視のないところで、子供なりに一生懸命に考えた自分たちのやり方であって、今、大人になってみれば、ハラハラすることや、ため息の出るようなことばかりだったと思われるかもしれません。（中略）

大人は、自分が子供のとき、どんなことに胸を踊らせ夢中になったことか、どんなことに悩んでいたか、そして、そんなことが自分の将来に向けての成長発達を支えた貴重な体験となって生きている、ということをお忘れしがちです。ですから、つい大人の立場からだけで子供を叱ったり、指示したりしてしまうことが多いようです。（中略）

どんなに世の中が変わっても、地球の上で人間として人間らしく生きることが大切であることに変わりはありません。また、人間の成長発達の過程が大きく違って来るわけでもありません。子供たちの成長発達にとって、子供の立場に立って本当は何を大切にすべきかを考えてくれる理解者としての大人の役割はますます重要であるといえます。（のち省略）

以上が隊長ハンドブックの「はじめに」に記載されておりますが 指導者の方々は忙しい時はなかなか見ませんが新たに読み返していただきたいと思います。

鴨居も都市化が進行し野山をかけ回ったりする場がなくなり 大人の管理・指導によりプログラムされた塾・スポーツクラブ等に通う一方受動的にテレビをみたり、コンピューターゲームの遊びに多くの時間を費やしている現状ではありますがわれわれも、ついボーイスカウト活動の中で管理・指導が主になり決められたプログラムを必死に押し付けている時もあります。また自分の独善的方针に子供を向けようと必死になっていないでしょうか。

大人たちの目が行き届き子供たちが自由に安心してのびのびと仲間集団のなかで、創造性や連帯感またその中でのルールを体験し、個々人が「自分のやり方」を体得していく自然の場を作っていくことが大事だと思います。ただ実際の現場では大人の管理・指導がないと動かない、常に受け身だとか、なかなかうまくいかない局面がでてくるが多々あることは承知と思います。明確なテーマや課題とともに取り組み方の前提条件等について示し その子供たちの興味に合わせたもっていき方が求められます。カブ年代までは体得することが精一杯で 自分のやり方どころでないとの感じですが、ボーイ以上となるとだんだんと自我とともに自分の言葉でわきまえた意見を少しずつ出してくるのが成長のしるしで楽しみです。スカウトが発するサインを読み取りマニュアル通りにはいかないなかでわかりあい活動をしていくことはお互い真剣なやりとりの場となります。

今一度 ボーイスカウト運動がスカウト個々人の発達・成長に貢献することであり そのことが我々指導者の役割であることを新しい33期を迎えるにあたって再認識していきたいと思っております。

先輩指導者の方々から95団はファミリーだと言われてきました。それぞれの年代は違ってもお互いの気持ちを察すること節度をもって接することがファミリーの良いところなので子供たちに負けずに続けたいところです。

弥栄

## 第33期 活動概要

### ■スローガン 心を通わす

#### ■第33期 各隊指導者他 紹介

団委員長 米澤潔  
副団委員長・育成会長 作田豊彦

ビーバー隊 柿崎隊長、砂原・小川・鴻池・藤塚副長  
カブ隊 芹澤隊長、鈴木・近藤・斉木副長、阿部副長補、荷方・葛上デンリーダー、  
米澤 RS インストラクター  
ボーイ隊 田中隊長、橋本・鶴殿・高橋友人副長、串田 RS インストラクター  
ベンチャー隊 佐佐木隊長、吉田副長  
ローバー隊 吉岡隊長、中村・福室副長

毎年ご協力いただいております団委員の皆様のほか、新しく団委員になられた3名をご紹介します。  
新団委員 前田有史、橋本久美子、高橋道人

#### ■主な育成会行事（9月～12月）

9月27日（日） 杉山神社祭礼 焼きそば・焼きとり出店予定  
10月17日（土） ヒガホン祭り 東本郷小学校にて おもち出店予定  
10月18日（日） 緑区 区民まつり 四季の森公園にて おもち出店予定  
11月 1日（日） 鴨居福祉まつり  
12月 5日（土） 白根学園バザー  
12月20日（日） 95団 クリスマス会  
12月31日（木） 杉山神社 火守り

その他 鶴見川堤防草刈 同愛会草刈 公園清掃等が予定されています。

この他に今期も多々行事が予定されています。隊活動共々、育成会行事へのご協力よろしくお願ひします。



#### ■育成会だより発行期間変更のお知らせ

例年、育成会だよりを年3回発行させていただいておりましたが、今期より年2回（9月・2月）の発行とさせていただきます。ご了承ください。

## 新任 ご挨拶

今期新任のお二人に、抱負・所感などメッセージをお願いしました。

新カブ隊隊長 芹澤理恵



第33期カブ隊隊長を務めさせていただくことになりました、芹澤です。よろしくお願いいたします。

カブ隊では、野外活動、組行動、進歩制度という三つを軸に進めてまいります。野外活動は、暑さ、寒さ、風、雨、光、そういうものを肌で感じるなかで、スカウト自身、色々なことに気づくでしょう。

組行動をとるのは、5～7人の小集団で遊び、その遊びのなかでコミュニケーション力を身につけるというこの年代の子どもの特性に近づけるためです。そこにかかわる大人の役割は、子どもたちだけではできない活動、例えば刃物を使う工作や料理、乗り物に乗って校区外へ出掛けること、夜の活動や宿泊、そういう場をスカウトに提供し見守ることであって、先生がいて生徒に何かを教えるという習い事とは違います。

進歩制度は、カブブックの履修を進めることです。履修するとリーダーのサインや記章がもらえます。そこにやる気や達成感を感じることができます。個性をのばすことにもつながります。

ボーイスカウトの活動は、試合で勝つとか何かの技術が際立って向上するという「結果」がわかりにくい活動かもしれません。だからこそ、リーダーや保護者といった大人たちがどれだけ同じ気持ちで活動にかかわるかがとても大切だと思っています。大人同士もたくさんコミュニケーションをとって、一年後に「とても良い一年だった」と思えるようにいたしましょう。



カブ隊 夏キャンプにて

新団委員 高橋道人



### “ボーイスカウト”活動での貴重な経験

9月には、95団にとって新たな1年の始まりの月です。今年もまた、上進式を迎え、新しい制服を身にまとい、次の一年への気持ちを新たにしたスカウトたちを目の当たりにし、清々しく感じました。私自身も、団委員として新しい1年のスタートを迎え、同じく、新たな気持ちでおります。

さて、私は、カブスカウト時代からおおよそ20年、95団にお世話になってきました。その間、中高生の多感な時期も含め、この95団でいろいろなことを学ばせてもらってきました。時には、部活動や習い事、受験勉強など、多くのことと両立しながらの日々でした。

ボーイスカウト活動を通して学ぶことは、もちろん骨格としてスカウト技能がありますが、それよりもとても勉強になったことが私にはあります。それは、さまざまな世代と世界の人とのコミュニケーションです。一般の子供たちにとって、大人など自分の両親とくらいしか話す機会がない、というのは普通な感覚でしょう。そんな日々において、他のスカウトの親や指導者、団委員などの方々に関わるシーンは、ある意味、刺激的な経験になったことと思います。

スカウト活動での多くの先輩後輩、親の世代、そしてその上の世代の方々とのコミュニケーション。人と人とのつながりやそのコミュニケーション能力の低下や人付き合いの形骸化が叫ばれて久しいこの時代に、しっかりとコミュニケーションを知らず知らずのうちに身につけることができたことは、何にも変え難い経験と感じています。しかしそれは、そのような環境を作り上げた大人たちの主体的な関わりがあったからこそのものでしょうか。隊指導者のみならず、団に関わりのある全ての方々が、一瞬でも多くスカウトに関わり、コミュニケーションという貴重な経験をもたらしていく。そのような心の通った団の風土を大切にしていくことこそ、見えないが実は最も大切なプログラムとなりうるのではと思います。

今、目の前にいるスカウトたちが、立派な大人となって社会に貢献していく姿こそが、我々の目標なのではと思います。

そのような、団全体がひとつの大きな家族であるかのような、心温まる95団を皆様と大切にしていければと切に願っております。

このように、私の経験から、スカウト活動の素晴らしさ、95団の素晴らしさを、少しでもお伝えできるのではと思っています。団内はもちろん、スカウト活動にご関心のある方へも、一人でも多くの方との関わりを大切に、私自身の活動も展開してまいりたいと思います。微力ながら頑張ってお参りますので、ご支援のほど、お願い申し上げます。

